

第1回文化芸術に関する意見交換会

- | | |
|---------------------|--|
| 1 日時 | 令和2年6月24日(水) 14時00分～15時40分 |
| 2 会場 | ときわ会館5階 小ホール |
| 3 出席者
(敬称略、五十音順) | (1) 委員
あらい太朗、新井久夫、久米尚子、陣出勇人
竹山浩、茅野憲一、坪内間、長井武志、中澤政人
畠山メグミ、浜雅俊、村上和夫、森口達治
(2) 事務局
スポーツ文化局 大西局長、野口部長
文化振興課 吉田課長
(3) 欠席者
大沢英子 |
| 4 公開・非公開の別 | 公開 |
| 5 傍聴人の数 | 1人 |
| 6 内容 | (1) 開会
(2) 挨拶
(3) 委員紹介
(4) 事務局紹介
(5) 議題
① (仮称) 次期さいたま市文化芸術都市創造計画
素案(案)について
② さいたま市文化芸術都市創造計画
令和元年度施策集について
(6) その他
(7) 閉会 |

会 議 記 録

(1) 開会

(2) 挨拶

スポーツ文化局長より挨拶

(3) 委員紹介

新任の浜副委員長より挨拶

(4) 事務局紹介

(5) 議題

＜① (仮称) 次期さいたま市文化芸術都市創造計画素案 (案) について＞

事務局 資料1「次期計画策定に向けた中間まとめ (案) に対する委員意見」及び資料3-2「【本編】(仮称) 次期さいたま市文化芸術都市創造計画素案 (案)」を中心に説明

委員長 ありがとうございます。事務局から説明がありました資料3-2について御意見、御質問等があれば御発言ください。

委員 表現が抽象的で、わかりづらい文章が多いと思います。文字だけでなく、もっとイラストを活用すれば、誰でも理解しやすくなるのではないのでしょうか。例えば、文字が1,000文字並んでいるよりも、一つのイラストの方が伝わりやすいと思います。

委員長 (仮称) 次期さいたま市文化芸術都市創造計画素案について、事務局として、より平易な表現にしていこうという試みはありますか。

事務局 実際に、もう少しわかりやすい表現にしてほしいとの意見は、以前から委員の皆様にご指摘をいただいております。

現行計画において、計画本編のエッセンスを抜き出して、内容をコンパクトにまとめた概要版を作成しており、次期計画においても資料3-1のような概要版を作成する予定となっております。また、計画本編についても、今後内容をまとめていく段階で、表現の工夫やイラストの活用について、検討してまいりたいと考えています。

委員長 ありがとうございます。他に御意見はございますか。

委員

確かに、市民目線でわかりづらい表現が見受けられると思います。具体的には、横文字が非常に多い気がします。横文字が多いと、文章を理解しているようで、理解できていないことがあります。

行政が作る文章は、抽象的で曖昧なものが多いが、市民が求めているのは、もっとわかりやすい計画であり、資料の中には、注釈で補足説明されている表現もありますが、不明瞭な文言の注釈がないと、文章が全て右から左に流れて行ってしまいます。

例えば、レガシーと聞くと、なんとなくわかる気はしますが、コンセプトが後ろについてくると、何のことだかわからなくなってしまいます。また、ダイバーシティを多様性との意味で表記していますが、本当にそれが正しいのか不安に思ってしまうこともあります。

そのため、市民目線に立って、必要な注釈をつけるなどして、専門用語や、行政用語ばかりが並んでしまわないように心掛けてほしいと思います。

事務局

新しい概念の説明ですと、どうしても横文字での表現が多くなってしまいます。横文字の表現を、日本語と併記している部分もございますので、本当にその表現にする必要があるかどうかを、しっかり吟味して、その上で注釈をつけたり、市民にわかりやすく伝える工夫をしたりして対応いたします。

委員

市民目線でのわかりやすさという視点は、非常に大事だと思います。資料1の委員意見に対し、修正対応した項目については、市民主体との意図が汲み取れるので、良かったと思います。

ただ、行政主導でやると、結果として文字が多くなってしまいうのも致し方ないところではないかと感じているところです。その中で、重点プロジェクトとして、どの項目に力を入れていくかをまとめている点は評価できます。

気になるのは、具体的に計画の内容を進めていくために、何を考えているかということだと思います。次期計画の内容が決定した後の具体的な実施計画はどうなるのでしょうか。

事務局

計画の内容自体は、御指摘のとおり理念的な内容となっております。ここから具体的な取組として、施策ごとにどのような事業を実施していくかについては、次期計画が始動する時期に遅れないような日程で、実施計画を作成できないかと検討している段階です。

委員

実施計画の策定には、文化芸術関する意見交換会の委員は、携わらないという理解で良いでしょうか。

事務局

御認識のとおりです。

委員

文化芸術に関する意見交換会において、実施計画の策定に携われないとなると、資料3-2の内容に、どこまで具体的な取組例をインプットできるかが重要になってくると思います。

しかしながら、資料1に掲載されている委員意見の内、具体的にこのような事業を実施したら良いのではないかとという提案に対しては、ほとんどが対応方針②として、今後計画を実施する中で参考にするという位置付けになってしまっています。そのため、次期計画策定段階において、これらの意見が全く反映されなくなってしまうのではないかとこのことを心配しています。

具体例として、資料1の20ページにある意見において、計画全体を通じて、目標達成している市民がどのような生活をしているかを把握するために、カスタマージャーニーマップや、ライフステージマップという具体例を提案しています。このカスタマージャーニーマップについては、ウェブマーケティングでよく使われる手法ですが、官公庁においても自治体のホームページを見た人が、どのような感情を抱いて、どのような行動をしていくかを想像することはできると思います。

例えば、今回の施策を実施した後の市民の日常の姿をイメージし、それを映像化して YouTube で流すだけでもアクセス数が伸びて、良い広報に繋がると思います。文化芸術の取り組みを行うと、こんな未来になるのだと市民に理解してもらうことが大切です。

いかに分かりやすく伝えるかということに関連して、委員意見が対応方針②に位置付けられていることを、どのように考えているのでしょうか。

事務局

資料1において、対応方針②となっている項目の内、御提案いただいたカスタマージャーニーマップ等の手法については、具体的な事業が、次期計画内容において、どれだけ効果を上げているかという進行管理を行う PDCA サイクルの中で、効果測定を行う過程で参考にさせていただくことを検討しております。

特に、御提案いただいた具体的な取組例について、計画に基づいて行う事業の企画立案の段階で、参考にさせていただきたいと考えております。

委員長

施策8に出てくる「多様な分野」という文言について、発言をさせていただきます。

私の仕事は、観光の領域なので、その観点から意見を言わせていただきます。皆さんは、観光というと、旅行業者が商品を買って、その商品を買った人が旅行に行き、現地でお金を使うという経済効果のことを思い浮かべることが多いかと思います。ただ、これは半世紀前の議論と言えます。

現在は、商品として提供されたシステムの上に人が乗って動くことによって、様々な価値が生まれていくということが、観光の仕組みであると考えられています。

同じように文化について考えていくと、文化とは、市民又は芸術家が作り出すものであって、それを皆さんが見に行くことにより、結果として、さいたま市の観光の価値が高まっていくことにつながります。ただ単に、物が売れる、人が飲食を行うという流れを考えるのであれば、それは経済局が扱う領域になってしまいます。

我々が文化活動を行うことによって、それを見に来てくれる人、参加してくれる人、インターネットを通じて関心を持ってくれる人がいるという状況を作り出していくことが、この計画で書かれている観光の意味であることを強調したいと思います。施策8の内容が経済局寄りの内容と勘違いされないように、事務局には留意していただきたいです。

さいたま市を訪れた人に対して、さいたま市の良さを伝えて、その人が自分のまちにそれを持ち帰ってくれるという期待を持っています。

委員

先日、「さいたま国際芸術祭 2020」の会場として予定されている場所の周辺を歩いてみましたが、開幕延期を周知する貼り紙が少し汚れてしまっているのを見て、寂しいと感じました。また、旧大宮区役所の垂れ幕には、開幕延期の説明が何も書かれていませんでした。

もっと広報活動に力を入れていく必要があるのではないのでしょうか。どのような事業を実施して、どのような効果を求めているのかについても、はっきりと周知する必要があると思います。

事務局

「さいたま国際芸術祭 2020」については、100 日前イベントを実施するなどしてアナウンスしてきましたが、広報活動が足りないのではないかと御意見を聞くと、それが市民感覚であり、更なる効果的な広報が必要と感じております。

委員長

他に御意見はありますか。無いようですので、次の議題に進みます。

＜②さいたま市文化芸術都市創造計画令和元年度施策集について＞

- 事務局 資料4「さいたま市文化芸術都市創造計画令和元年度施策集」を説明
- 委員長 ありがとうございます。事務局から説明がありました資料4について御意見、御質問等があれば御発言ください。
- 委員 事業の募集をどのようにしているのか教えてほしい。また、補助金を交付している事業について、どのように事業内容の周知を行っているのでしょうか。
- 事務局 この施策集について、基本的には市が主催・共催として実施している事業を掲載しております。
また、施策集に掲載されている補助金交付事業について、募集方法は事業ごとに異なっています。典型的な例としては、市ホームページや市報さいたまを活用して募集を行い、提出いただいた申請書に基づいて審査の上、交付決定をするというような流れで手続きを行っております。
- 委員 ありがとうございます。
続けて意見を言わせていただきます。過去の会議資料にて、他の政令指定都市と比較してさいたま市の文化芸術に係る予算があまり多くないとの記載があったと記憶していますが、資料4を見ると、様々な部署で文化芸術に関する事業を行っており、予算額を見ると相当な金額をかけてアプローチしているようにも見受けられます。
今後、PDCA サイクルで評価して計画の進行管理をする中で、使われた金額の効果をしっかり追っていく必要があるのではないのでしょうか。数人の芸術家に対して、補助金を交付した効果が、周りの市民にどれだけ還元されているかを見ていかないといけないと思います。
これだけの予算を使って補助金を出しているのであれば、事業を行った団体が市民にしっかり発信をして、その効果を明確にしておかないと、税金を使うことについて説明ができなくなってしまいます。
- 委員長 実際には、予算と施策を管理する部署が違うというところに、難しさがあるのではないのでしょうか。私個人の考え方としては、この

施策集に掲載される事業については、ワッペンをつけるなどして周知するのも、一つのアイデアだと思います。

また、事業の実施内容が決定した時点で、SNS を活用して発信することが大切です。しかしながら、市役所がそれを発信しても、タグが付きづらいこともあって、市民への周知につながらないことが多い。そのため、市民サポーターの皆様に活躍してもらえよう環境づくりが求められています。

ただ、次期計画の存在があって、初めて個々の事業が動き出すことになるので、次期計画素案の検討に携わり、内容を承認していくことが、現時点で我々にできる第一歩なのだと思います。

委員

大小様々なイベントが行われている中で、一つひとつでどのような効果が得られたかを検証し、取捨選択をしていくのは大変な作業であると思います。

どれだけお金を使って、どれだけの効果があったかということを審査する部分も充実させていく必要があります。結果をわかりやすく示して、市民にしっかり提示できるようにしていくことが求められるのではないのでしょうか。

事務局

以前は、事務事業全てに対して評価を行い、その結果でスクラップアンドビルドを検討するという手法が、本市において、とられていましたが、膨大な作業を伴うことから、この事業自体が廃止となりました。これからは、主要な事業について、総合振興計画やその他の関連する計画内容の進行管理という視点から、費用対効果を検証していくことも求められています。

そのため、計画に位置付けのある事業については、どの計画に基づいて進行管理をしているのかということ、記載することも一つの方法かと考えます。

委員長

文化芸術に関するイベントに参加した市民が情報発信した内容を、まとめられるものがあるといいと思います。TikTok 等の SNS の活用の仕方は、今後もっと検討していかなければならないのではないのでしょうか。

アートを表現する人、アートを見て広める人の共同作業が大事となるため、今まではアートを表現する人への支援が目立っていましたが、これからはアートを見て広める人への支援も検討すべきではないのでしょうか。政策の評価だけでなく、市民がそのような支援を受け入れてくれるかという評価も大切になります。

委員 アートを見て広める人について、資料4の5ページにある SaCLa サポーターズ等が、そのような役割を担っているものだと思っ
ていましたが、実際にどのような活動をしているのでしょうか。

事務局 SaCLa サポーターズについては、(公益財団法人) さいたま市文化
振興事業団が、文化芸術に関心のあるボランティアを募って、主に
イベント開催時の座席案内などの協力をしていただいております。
更に、事業経験を積んでいる方については、事業企画や広報活動に
も携わっていただいております。

SaCLa アーツについては、芸術家の方を人材バンクのような形式
で登録させていただき、出前コンサートなどの要望があったとき
に、(公益財団法人) さいたま市文化振興事業団が紹介するという
制度となっております。

委員長 補足説明をさせていただきます。このような仕組みは、最初に美
術館のボランティアガイドとして誕生して発展してきたもので、こ
れを文化活動に導入するのは、とても良いアイデアだと考えてい
ます。

地方で言うと、民謡や地域の踊りを行う文化団体が、学校の修学
旅行の受け入れを行う際に、市民が主体的に作るという仕組みとし
て表れてくると思います。これは、先程話に出た SNS を活用して見
る人の立場とは異なり、市民が作るという立場で関わることができ
るため、とても重要になってくると思います。岩槻区では、このよ
うな仕組みが成長していると思います。

委員 岩槻区の話が出たので、岩槻人形博物館の話させていただきます
。私は、博物館建設が計画された段階から関心を持って見守って
きましたが、完成までに相当な年月がかかっています。

計画当初は、人形博物館という施設が岩槻区在住の方に受け入れ
てもらえるのかということについて、不安もありましたが、実際に
建物が完成して開館すると、9日間で1万人という驚異的な来館者
があったと聞いています。あくまでも、開館当初のニーズがあるの
で、それだけで一喜一憂するものではありませんが、地域の方の
Facebook などを見ていると、開館を楽しみに待っていた人が、相当
数いたのだなと感じています。

先日、岩槻人形博物館が岩槻応援プロジェクトの一環でライトア
ップされていた時には、写真を SNS にアップしてくれている人が沢
山いました。また、朝方の写真や、夕日をバックに撮影している人
もいて、嬉しく感じました。

また、にぎわい交流館の存在もあり、時間はかかってしまいましたが、地域の人と行政が協力して作り上げたものとして、良い効果が生まれていると思います。

委員長

どのように市民が参加するか、どのように市民がサポートして広めていくかについて考えていくことは重要でして、そのような流れは、さいたま市においても感じられるため、我々も行政も汲み取っていく努力をする必要があります。

委員

議題（１）の内容になってしまいますが、資料３－２の１３ページに記載されている計画全体の成果指標について、平成２５年度から成果指標の達成状況が、ほぼ横ばいの数字になっている状況から、どうすれば数字を上げることができるのか、どのような活動をしていきたいのかというイメージが見えません。

これだけ見ていると、ただアンケートをやっているだけにしか見えなくなってしまうので、具体的な方向性について、行政がどのように考えているのかを伺いたいです。

事務局

御指摘いただいた通り、行政はどうしても発信力が下手な部分があると感じております。また、発信をしても市民に届いていないという現状も見受けられます。

そのため、先程話に出ましたサポーターも含めて、もっと市民の皆様を巻き込んでいくような取組について、真剣に考えていかなければならないと感じています。

また、この１３ページに記載されている成果指標の数字に関しては、現状と課題として掲載しているものとなっております。これまでの文化芸術都市創造審議会及び文化芸術に関する意見交換会にて御指摘をいただいているとおり、次期計画については、４８ページに記載されているように、次期総合振興計画における成果指標を採用することを検討しております。

委員長

ありがとうございました。他に御意見はございますか。

委員

議題（１）の内容となってしまいますが、資料１において対応方針②となっている項目について、ただ検討するだけでなく、しっかり事務局の方で活用していただくようお願いしたいと思っています。

また、資料４について、漫画文化に関していえば、９つの事業が掲載されていますが、これを継続して実施するだけでは何も変わら

ないと思います。私は、記載されている全ての事業に関わっているため、継続してもらえることは大変ありがたいが、作品の応募数は年々減ってきていることから、現状維持では何も変わらないと考えています。

そのため、常に新しいことを提案していますが、採用されない状況が続いていますので、具体的な取組について、もっと市民の声に耳を傾けてほしいと感じています。

広告宣伝という観点からいえば、行政にはもっといろいろな媒体を活用してもらいたい。さいたま市にラジオ局があるのだから、是非とも活用すべきです。観光大使という立場からしても、あまりにも活躍の場が少ないと思いで、活用してほしいと思っています。

漫画家という立場から言わせてもらえば、漫画はどの分野にでも入り込める文化であるため、計画においても漫画のイラストを活用して、さいたま市が漫画文化で盛り上がっているところをアピールしてもいいのではないのでしょうか。

最後に、もう一つだけ言わせていただきます。現在、新型コロナウイルスの影響で、芸術家たちが何もできない状況が続いてしまっています。「さいたま国際芸術祭 2020」についても、多くの人が協力して準備をしてきたのに、開幕を迎えられていない状況です。

行政として、施策集をまとめていく中でこのようリスクが発生した際に、どのような対応をしてくれるのか、どうやって芸術家を守ってくれるのかが盛り込まれていれば、より良いものになると思います。

事務局

本日いただきました御意見は、是非とも参考にさせていただきます。議題の中でも御指摘いただきましたが、次期計画につきましては、文化芸術に関する基本計画に当たるもので、個別の事業に関する詳細な事項は、盛り込めないものという事情があります。

そのため、実際に個々の事業を企画立案していく過程で、皆様からいただいた御意見を取り入れていきたいと考えております。

また、新型コロナウイルスの対策については、行政としてもイベントの見直し対応に苦慮しているところであります。今後は、感染症対策を踏まえた文化芸術に関する施策のあり方を、検討していかなければならないと考えております。

委員長

次は、文化芸術都市創造審議会にて、同様の議論をしていただくこととなりますので、事務局から本日の意見を伝えていただき、より良い計画にまとめていただくよう願っております。

特に、実施計画を検討する際には、市民をどこまで巻き込んでいけるかを考えていただきたいと思います。

それでは、議題については、以上となります。御協力ありがとうございました。

(6) その他

事務局 参考資料1「次期計画策定に向けた今後のスケジュール」を説明
以下の3点について事務連絡

- ・報酬について
- ・会議概要について
- ・計画冊子（閲覧用）について

(7) 閉会

さいたま市スポーツ文化局文化部文化振興課
電話829-1226
Fax829-1996